



2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月9日

ダイワハウジングス株式会社

(証券コード：3107)

目次

1. 会社概要と各事業のご紹介
2. 2019年3月期 第2四半期連結決算概要
3. 2019年3月期 通期連結業績予想

会社概要と各事業のご紹介

会社概要



名称（商号）	ダイワボウホールディングス株式会社
（英文名称）	Daiwabo Holdings Co.,Ltd.
本社所在地	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号
設立日	1941年4月1日
連結従業員数	5,859名（2018年9月末現在）
資本金	216億9,674万4,900円
株式	東証1部上場 証券コード3107
事業内容	(1) ITインフラ流通事業：コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業 (2) 繊維事業：化繊綿、不織布製品、産業資材関連製品、 衣料・リビング製品用テキスタイルおよび最終製品の製造販売業 (3) 工作・自動機械事業：工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業 (4) その他：ホテル業、エンジニアリング業

会社概要 ダイワボウグループ

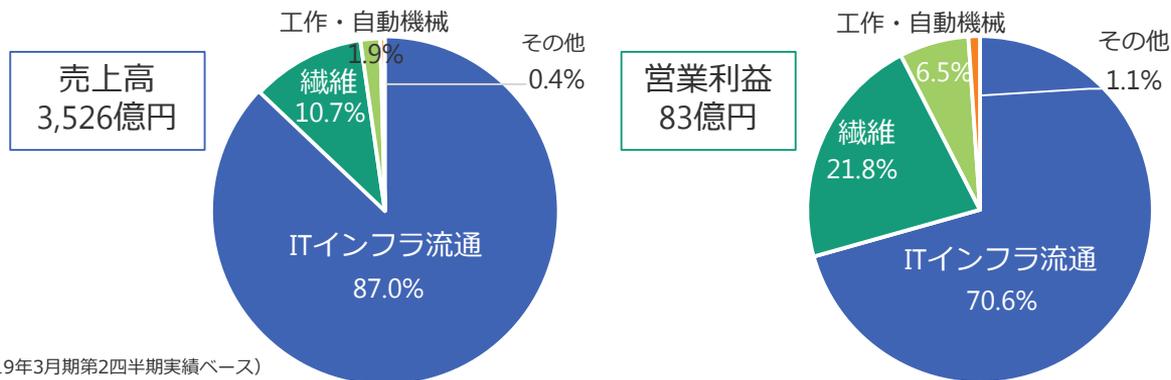
ITインフラ流通事業	ダイワボウ情報システム株式会社 ディーアイエスサービス&サポート株式会社 ディーアイエスソリューション株式会社	
繊維事業	大和紡績株式会社 ダイワボウポリテック株式会社 ダイワボウレーヨン株式会社 ダイワボウプログレス株式会社 カンボウプラス株式会社 朝日加工株式会社 ケービー産業株式会社 カンボウキャンパス・カッティング・サービス株式会社 ダイワボウスピントック株式会社 ディーエヌプロダクツ株式会社 ダイワマルエス株式会社 P.T. DAIWABO INDUSTRIAL FABRICS INDONESIA	P.T. DAIWABO SHEETEC INDONESIA P.T. DAIWABO NONWOVEN INDONESIA ダイワボウノイ株式会社 ダイワボウアドバンス株式会社 西明株式会社 王子ファイバー株式会社 Daiwabo Hong Kong Co., Limited 蘇州大和針織服装有限公司 大和紡工業（蘇州）有限公司 P.T. PRIMATEXCO INDONESIA P.T. DAIWABO GARMENT INDONESIA
工作・自動機械事業	株式会社オーエム製作所 株式会社オーエム機械 オーエム金属工業株式会社 オムテック株式会社	O-M (U.S.A.) ,INC. 欧安睦（上海）商貿有限公司
その他	ダイワボウアソシエイト株式会社 ダイワボウエステート株式会社 大和紡観光株式会社（霧島国際ホテル）	ダイワエンジニアリング株式会社 ダイワボウライフサポート株式会社 カンボウ企業株式会社

主な事業内容

ITインフラ流通事業 「FACE to FACE」	繊維事業 「夢と未来をかたちにする」	工作・自動機械事業 「匠の精鋭技術」
<p>中核企業：ダイワボウ情報システム (DIS)</p> <p>特徴：国内最大級のIT系ディストリビューター</p> <p>強み：地域密着・全国網羅（拠点約90カ所） 豊富なアイテム（約210万アイテム） 仕入れ先（約1,200社） ローコストオペレーション</p> <p>シェア⁽¹⁾：パソコン 19.2%（198.6万台） サーバー 13.9%（6.0万台）</p> <p>協業企業数：約19,000社</p> <p>顧客⁽²⁾：ビジネスユーザー 84.6% パーソナルユーザー 15.4%</p>	<p>中核企業：大和紡績</p> <p>特徴：幅広く繊維素材・繊維製品を扱う ライセンスブランドの製造・販売</p> <p>強み：衛生材料用途の合繊綿、機能性レーヨン綿 産業用重布、カートリッジフィルター カジュアル衣料製品</p> <p>顧客：大手衛生材料メーカー 大手不織布メーカー 大手SAP・衣料品量販店</p> <p>ライセンスブランド 紳士・婦人服衣料：「FILA」「T&C」 子供服：「Champion」「Hanes」「Wilson」</p>	<p>中核企業：オーエム製作所</p> <p>特徴：世界有数の立旋盤 省力化自動包装機が主力</p> <p>強み：超大型機から小型精密機まで対応した立旋盤 梱包ラインにフレキシブルに高速で安定した自動機械</p> <p>顧客 工作機械：航空機エンジン、インフラ産業等 自動機械：食品・医薬品、日用品産業等</p>

(1) 2018年3月期確定値 出展:MM総研

(2) 情報機器卸売等販売における構成比（18年3月期実績）

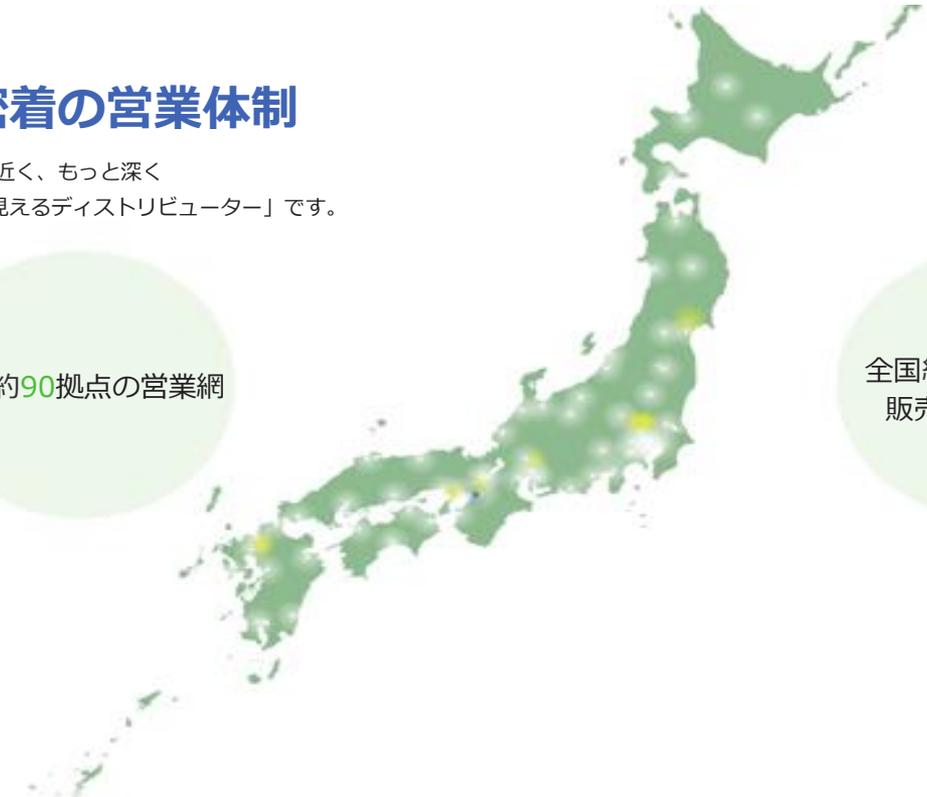


(2019年3月期第2四半期実績ベース)

ITインフラ流通事業 ダイワボウ情報システムのビジネスモデル

地域密着の営業体制

お客様により近く、もっと深く
DISは「顔の見えるディストリビューター」です。



全国約90拠点の営業網

全国約19,000社の
販売パートナー

ITインフラ流通事業

ダイワボウ情報システムのビジネスモデル

- 全国約90拠点の営業網によるパートナー企業との協業体制
- 取り扱いアイテム数210万以上から最適な商品やサポートを提供

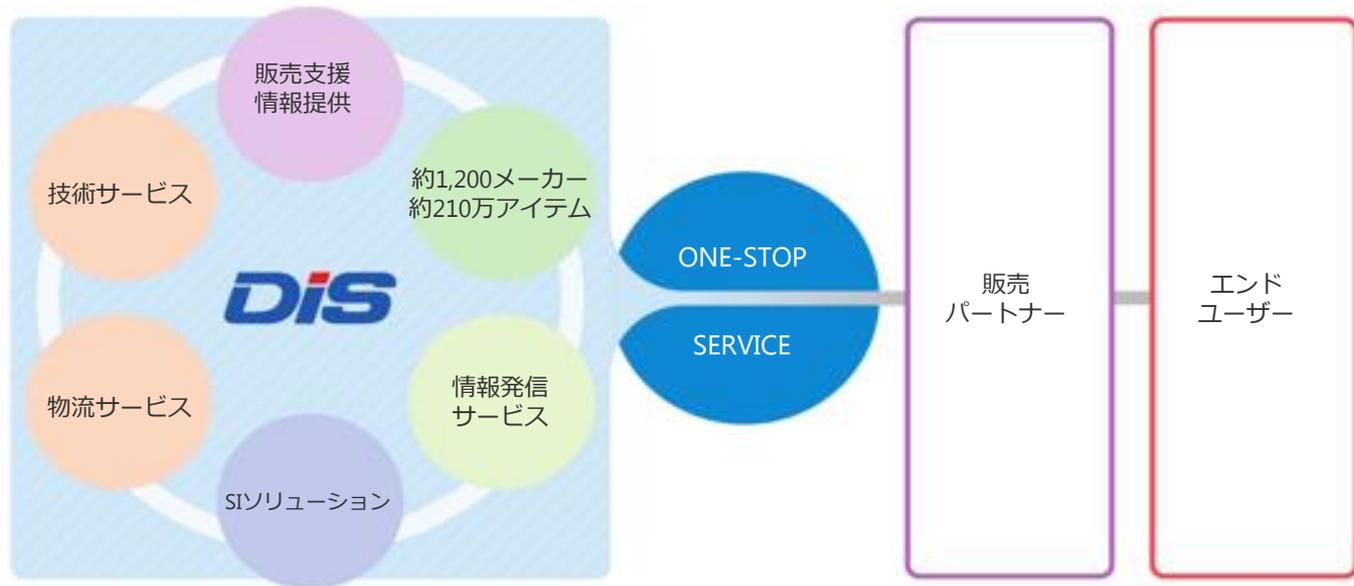


ITインフラ流通事業

ダイワボウ情報システムのビジネスモデル

ワンストップサービス

DISは、ディストリビューター機能に加えて、
様々なサービスを組み合わせた トータル提案を実現します。



2019年3月期 第2四半期連結決算概要

エグゼクティブ・サマリー

- 連結売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも過去最高を更新
- ITインフラ流通事業は、PC本体・周辺機器ともに受注が大幅に増加し前年同期を上回る過去最高の売上高・営業利益を達成
- 繊維事業では、カジュアル衣料製品の大型案件受注により増収増益
- 工作・自動機械事業は堅調に推移し、前年同期比で増収増益を達成

2019年3月期 第2四半期連結業績概要

- 期初予想を上回り着地
- 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも過去最高を更新
- 売上高の増加により販管費率は前年同期比で0.5ポイント低下

(百万円)

	2017年3月期 第2四半期		2018年3月期 第2四半期		2019年3月期 第2四半期					
	累計実績	構成比	累計実績	構成比	累計実績	構成比	増減額	前年同期比	期初予想	対予想比*
売上高	283,472	100.0%	312,817	100.0%	352,674	100.0%	39,856	112.7%	321,500	109.7%
売上原価	258,140	91.1%	286,095	91.5%	322,255	91.4%	36,160	112.6%	-	-
販売費及び 一般管理費	20,791	7.3%	21,391	6.8%	22,072	6.3%	680	103.2%	-	-
営業利益	4,540	1.6%	5,330	1.7%	8,347	2.4%	3,016	156.6%	5,650	147.7%
経常利益	4,360	1.5%	5,253	1.7%	8,264	2.3%	3,010	157.3%	5,700	145.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,475	0.9%	4,689	1.5%	5,513	1.6%	824	117.6%	3,550	155.3%

* 2018年5月11日に発表した2019年3月期第2四半期の期初予想と累計実績との比較

事業セグメント別業績

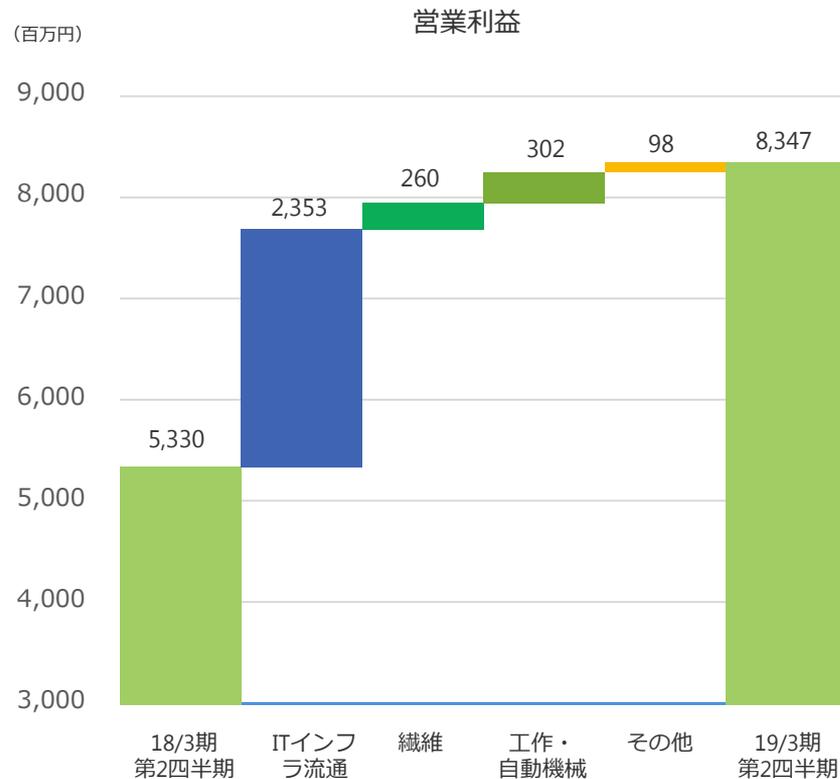
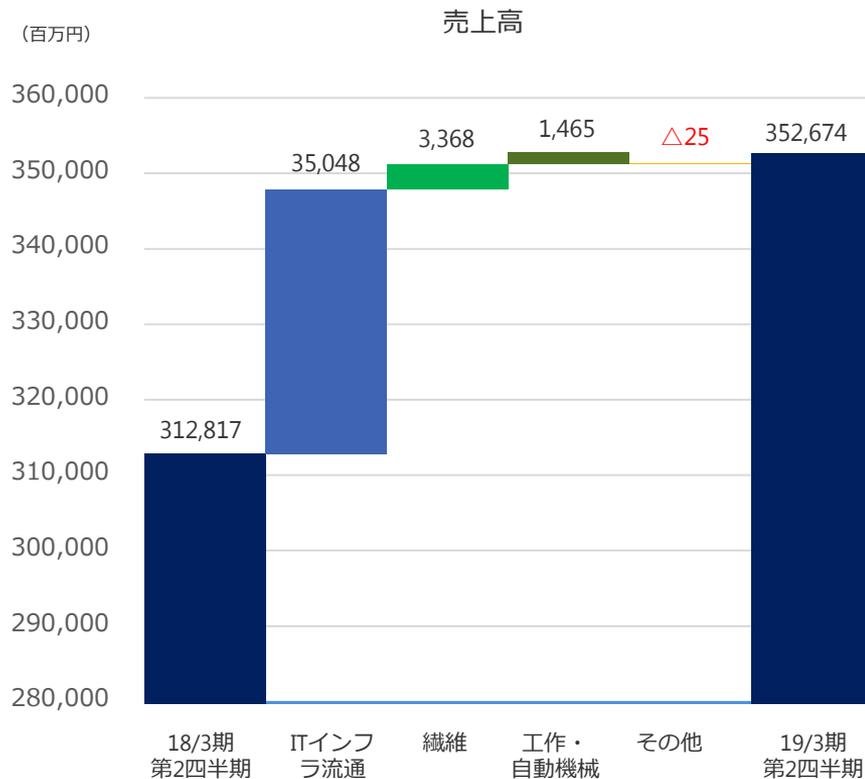
- 売上高・営業利益で全セグメントにおいて期初予想を上回り着地
- 営業利益では全セグメントにおいて前年同期比で増益を達成

(百万円)

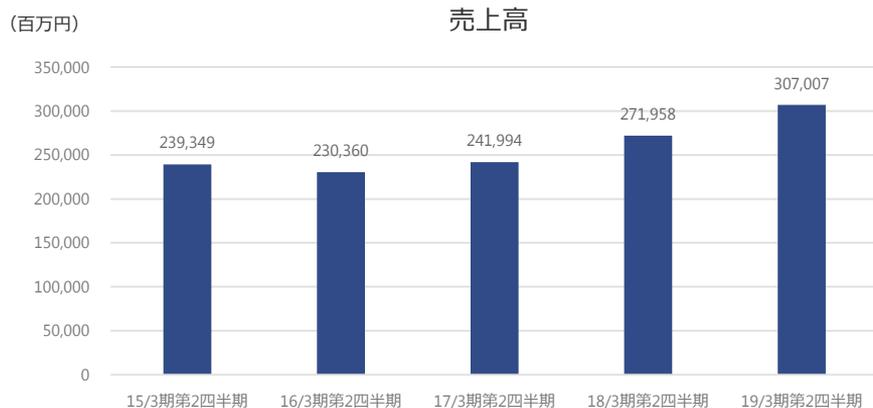
	2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期				
	累計実績	累計実績	累計実績	増減額	前年同期比	期初予想	予想比
売上高	283,472	312,817	352,674	39,856	112.7%	321,500	109.7%
ITインフラ流通事業	241,994	271,958	307,007	35,048	112.9%	278,600	110.2%
繊維事業	34,581	34,211	37,579	3,368	109.9%	35,200	106.8%
工作・自動機械事業	5,642	5,083	6,549	1,465	128.8%	6,200	105.6%
その他	1,254	1,564	1,538	△ 25	98.4%	1,500	102.5%
営業利益	4,540	5,330	8,347	3,016	156.6%	5,650	147.7%
ITインフラ流通事業	2,460	3,541	5,895	2,353	166.5%	3,750	157.2%
繊維事業	1,791	1,556	1,817	260	116.8%	1,400	129.8%
工作・自動機械事業	351	239	542	302	226.3%	450	120.6%
その他	△ 63	△ 7	90	98	-	50	181.9%
調整額	0	0	0	0	-	-	-

(注) 前期より「その他事業」のゴム製品製造販売業を「繊維事業」に区分変更しております。2017年3月期 第2四半期のセグメント情報は、変更後の区分に基づき、組み替えを行っております。

セグメント別 売上高と営業損益（増減額）



ITインフラ流通事業



事業環境・需要動向

- 法人市場：堅調な企業業績を背景に働き方改革や労働環境改善に向けた社会情勢も追い風に、IT投資は底堅く推移
- 文教向け：文部科学省のICT環境整備方針に基づき、引き続きタブレットPCや大型表示装置および無線LAN環境の整備が進む
- 個人向け：PC需要は、スマートフォンの台頭により買い替え需要は停滞する一方、プログラミング学習やeスポーツといった新たな需要にて回復兆候を期待

実績

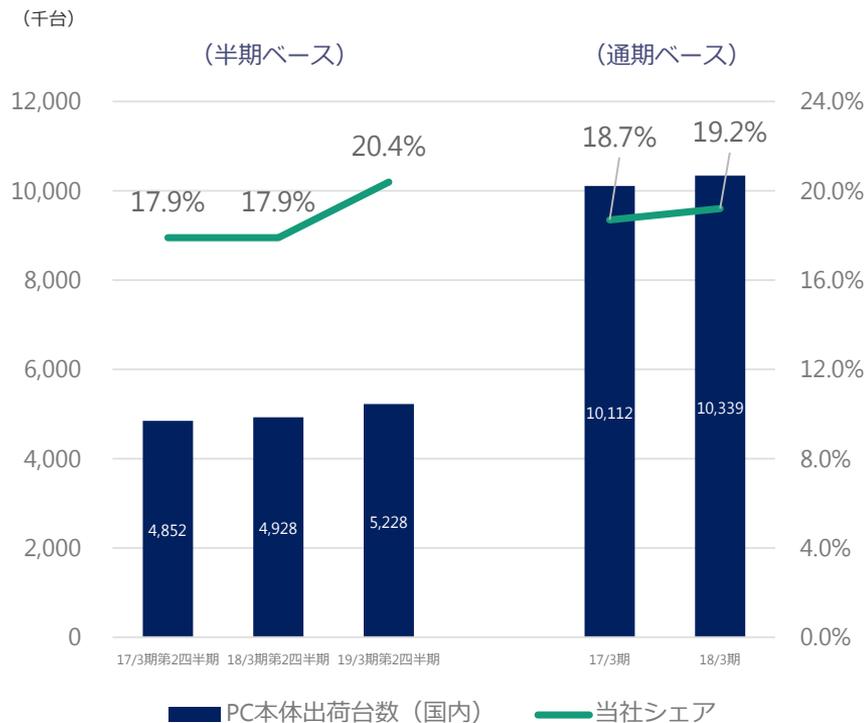
- 売上高：307,007百万円（前年同期比+12.9%）過去最高
- 営業利益：5,895百万円（前年同期比+66.5%）過去最高
- PC出荷台数：1,064千台（シェア：20.4%）
- サーバー出荷台数：28千台（シェア：13.5%）

課題

- Windows7のリプレース需要と付随する様々なIT投資の囲い込み
- 「iKAZUCHI（雷）」を軸としたサブスクリプションビジネスの更なる普及
- 文教専任部隊の販売支援によるICT環境整備の推進

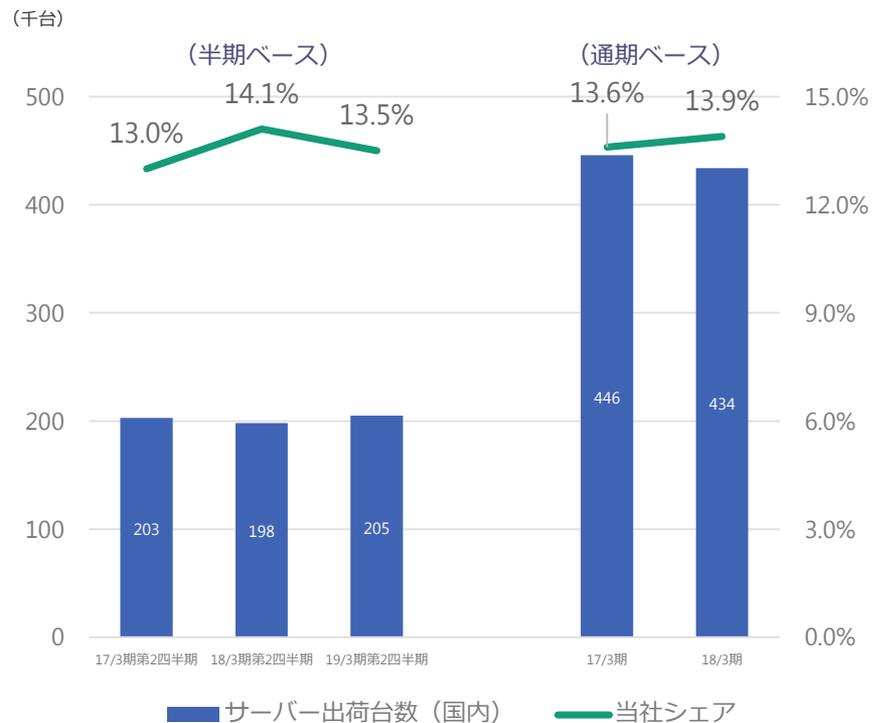
国内PCおよびサーバーの出荷台数

国内PC出荷台数と当社シェア



出典：MM総研

国内サーバー出荷台数と当社シェア



出典：MM総研

物流効率化 関東中央センター & 関東キittingセンター新設

センターの概要

住所	〒355-0157 埼玉県比企郡吉見町西吉見450-9 プロロジスパーク吉見内	
敷地面積	63,503m ²	
倉庫面積	44,753m ² (約13,500坪) 200m×230m	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットストレージシステム (AutoStore) を導入した大規模センターでメーカー物流代行業務 (入出荷、保管、検査、在庫管理) を行うPDセンター併設 ・圏央道「川島IC」、関越自動車道「東松山IC」から車で約10分の立地にあり、関東全域に加えて東北方面への配送も可能なDIS東日本地区最大の物流拠点 	
期待される効果	関東の物流センターの集約による「まとめ出荷」「センター間移動削減」「人材活用の効率化」「効率的な在庫配置」とともに、最新鋭設備施設への集約でメンテナンス費用の削減に加え効率化と労働環境の向上も図る	

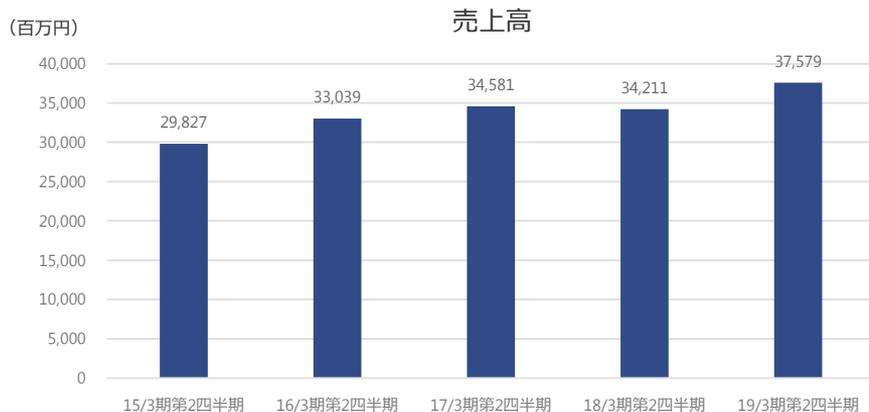
導入したロボットストレージシステム



関東キittingセンター内部



繊維事業



事業環境・需要動向

- 合 織 部 門：衛生材料業界は堅調に市場が拡大。フェイスマスクをはじめとするコスメ製品やウェットシート市場も堅調
- レーヨン部門：不織布用原綿が差別化素材で拡大。衣料用機能綿も前年実績を上回る
- 機能製品部門：電子部品業界向けのフィルターが好調に推移
- 樹脂加工部門：災害復興需要等により産業用シーートの販売が拡大
- 衣料製品部門：国内アパレル市況が低迷するなか、当社は衣料製品OEMの大型案件受注により増収

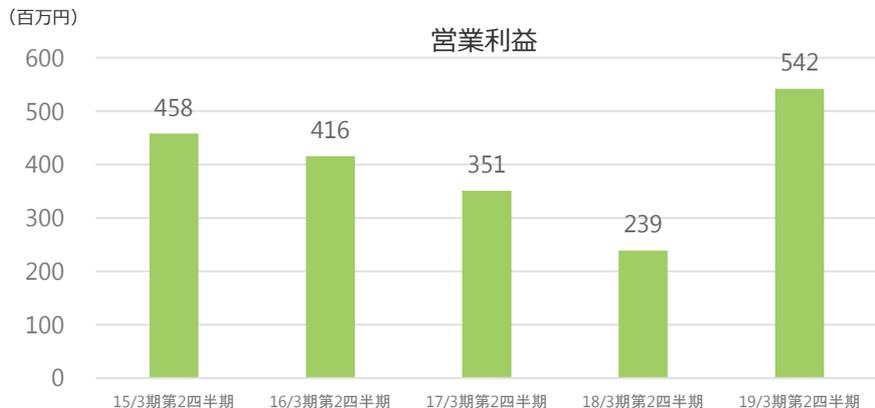
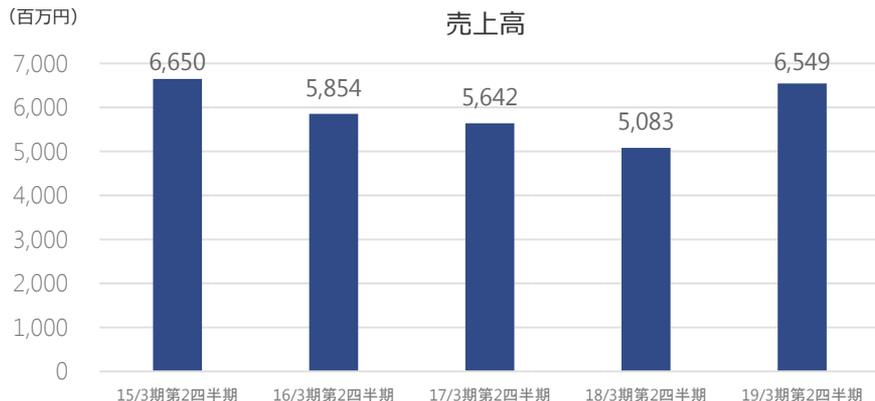
実績

- 売 上 高：37,579百万円（前年同期比+9.9%）
- 営 業 利 益：1,817百万円（前年同期比+16.8%）
- 事業の状況：衣料製品部門を中心にセグメント全体としては増収増益
合織部門と樹脂加工部門は増収も、原材料費の上昇により僅かに減益

課題

- 合 織 部 門：複合繊維増産設備の円滑な稼働
- レーヨン部門：機能綿を中心とした差別化の推進
- 機能製品部門：成長を見込める電子部品業界向けの拡販
- 樹脂加工部門：災害復興需要による受注増加への対応
- 衣料製品部門：主力顧客との取り組み拡大

工作・自動機械事業



事業環境・需要動向

- 工作機械部門：2018年の日本工作機械工業会受注総額は1兆8,500億円と前年比12.4%の増加を見込んでいる
当社の2018年度上期実績受注高は46億円と前期比7.1%増加
- 自動機械部門：2018年度の日本包装機械工業会生産高計画は4,529億円と前年度比1.6%の増加を見込んでいる
当社の2018年度上期実績生産高は16億円と前期比9.0%増加

実績

- 売上高：6,549百万円（前年同期比+28.8%）
- 営業利益：542百万円（前年同期比+126.3%）
- 工作機械部門：航空機エンジン、鉄道、金属素材等への売上が堅調
- 自動機械部門：食品、製菓、医薬品等の省人化需要を取り込んだ

課題

- 工作機械部門：繁忙期における生産性の向上
海外需要の景気変動への対応
- 自動機械部門：生産増加に対応した納期や採算管理徹底
ユーザーニーズに合わせた省力化機械の提案

連結貸借対照表（概要）

（百万円）

	2018年3月末	2018年9月末	増減額	増減要因
流動資産	230,057	231,814	1,756	現預金および商品の増加
固定資産	55,972	55,930	△ 41	償却によるのれんの減少
資産合計	286,029	287,744	1,715	
流動負債	183,872	179,914	△ 3,957	短期借入金の減少
固定負債	29,009	31,354	2,345	長期借入金の増加
負債合計	212,881	211,269	△ 1,611	
株主資本	73,186	76,029	2,843	利益計上による増加
純資産合計	73,148	76,475	3,327	
負債純資産合計	286,029	287,744	1,715	

（注）今期より「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用を行っており、2018年3月末のデータは、この改正に従って組み替えております。

2019年3月期 通期連結業績予想

2019年3月期 通期連結業績予想

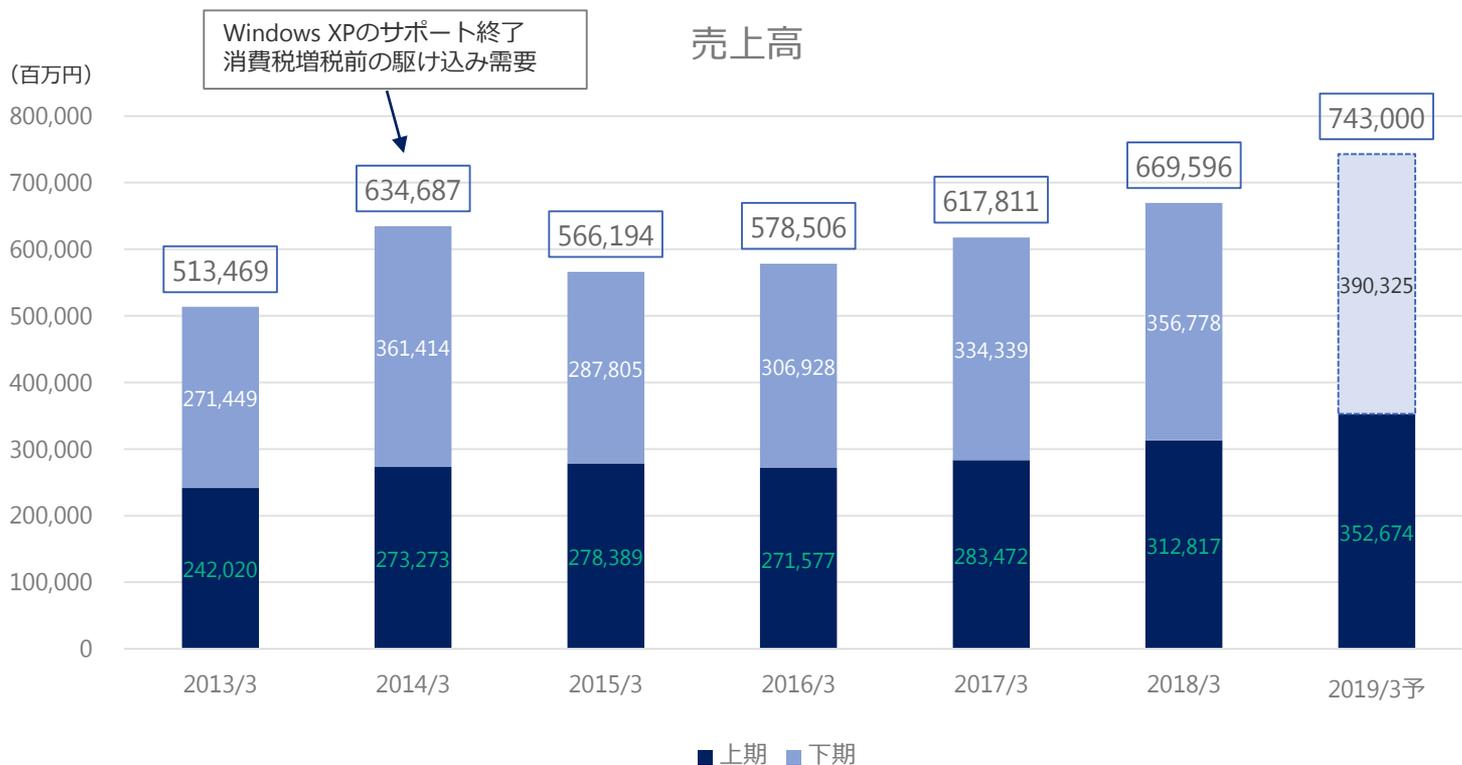
- 売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益で過去最高を予想

(百万円)

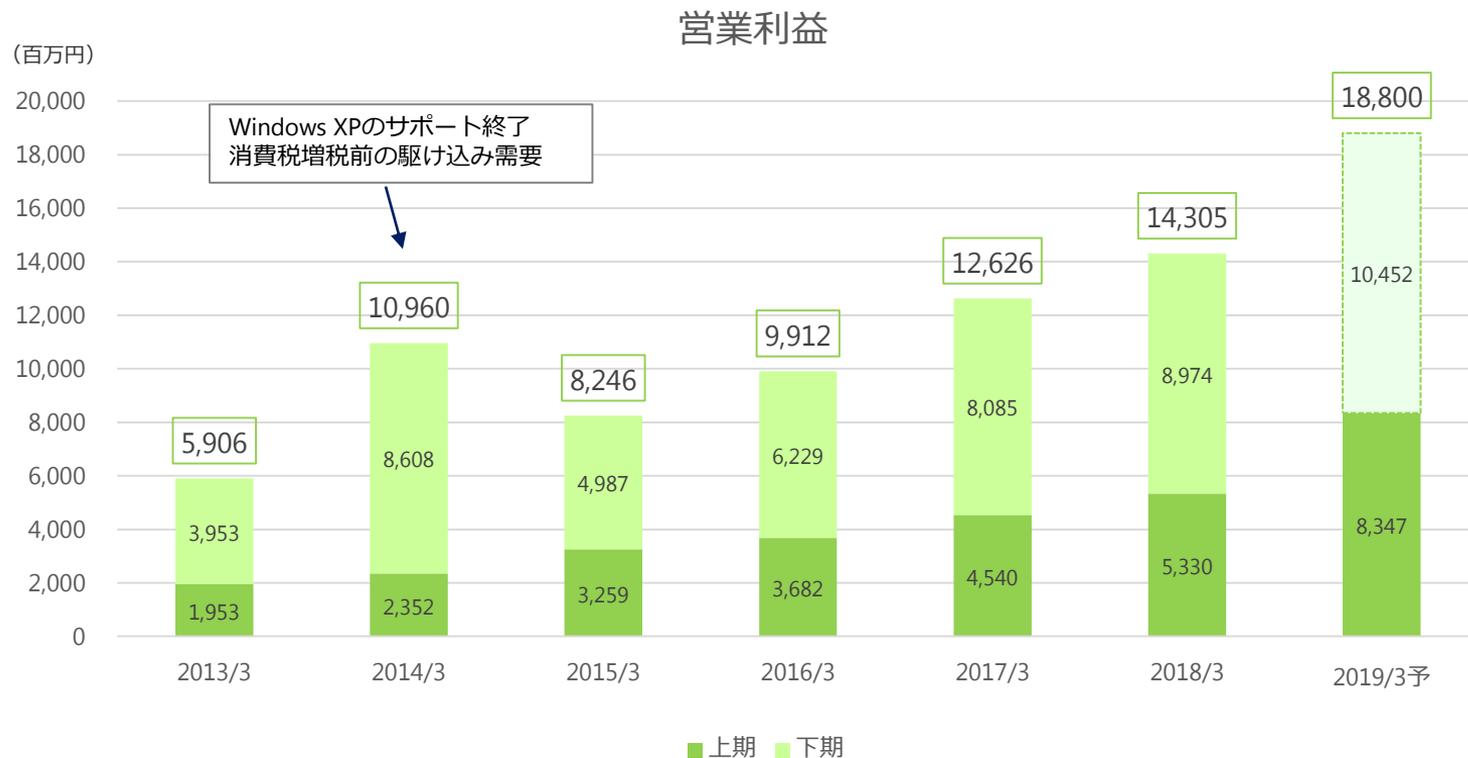
	2018年3月期 (通期)		2019年3月期 (通期)						修正予想と期初予想の比較	
	実績	構成比	期初予想	構成比	修正予想	構成比	増減額*	前期比*	修正額	修正率
売上高	669,596	100.0%	686,700	100.0%	743,000	100.0%	73,403	111.0%	56,300	8.2%
営業利益	14,305	2.1%	16,500	2.4%	18,800	2.5%	4,494	131.4%	2,300	13.9%
経常利益	14,291	2.1%	16,500	2.4%	18,800	2.5%	4,508	131.5%	2,300	13.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,531	1.6%	10,000	1.5%	11,600	1.6%	1,068	110.1%	1,600	16.0%

* 修正予想の対前期比較

売上高の推移



営業利益の推移



事業セグメント別業績予想

■ 主要3事業で増収増益を予想

(百万円)

	2018年3月期 (通期)	2019年3月期 (通期)				修正予想と期初予想の比較	
	実績	期初予想	修正予想	増減額*	前期比*	修正額	修正率
売上高	669,596	686,700	743,000	73,403	111.0%	56,300	8.2%
ITインフラ流通事業	582,700	597,900	650,000	67,299	111.5%	52,100	8.7%
繊維事業	71,021	73,000	76,500	5,478	107.7%	3,500	4.8%
工作・自動機械事業	11,972	12,800	13,500	1,527	112.8%	700	5.5%
その他	3,902	3,000	3,000	△ 902	76.9%	-	-
営業利益	14,305	16,500	18,800	4,494	131.4%	2,300	13.9%
ITインフラ流通事業	9,927	11,800	13,900	3,972	140.0%	2,100	17.8%
繊維事業	3,309	3,600	3,600	290	108.8%	-	-
工作・自動機械事業	931	1,000	1,100	168	118.1%	100	10.0%
その他	135	100	200	64	147.1%	100	100.0%

* 修正予想の対前期比較

ITインフラ流通事業の取り組み課題と施策

下期の事業環境

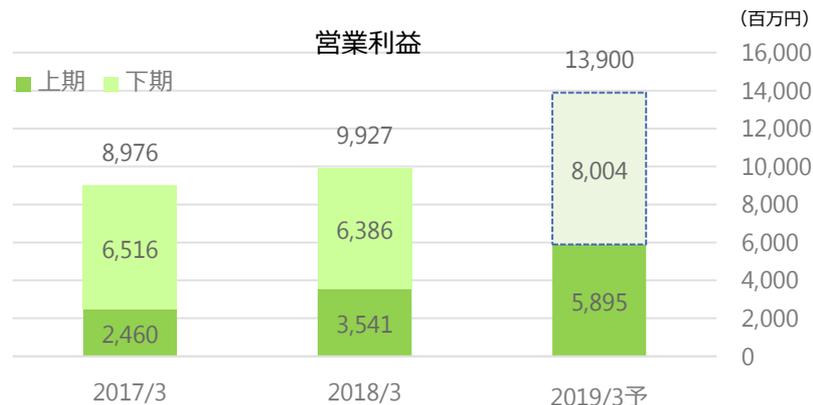
- 法人市場：堅調な企業業績を背景に働き方改革や労働環境改善に向けた社会情勢も追い風に、IT投資は底堅く推移
- 文教向け：文部科学省のICT環境整備方針に基づき、引き続きタブレットPCや大型表示装置および無線LAN環境の整備が進む
- 個人向け：PC需要は、スマートフォンの台頭により買い替え需要は停滞する一方、プログラミング学習やeスポーツといった新たな需要にて回復兆候を期待

課題

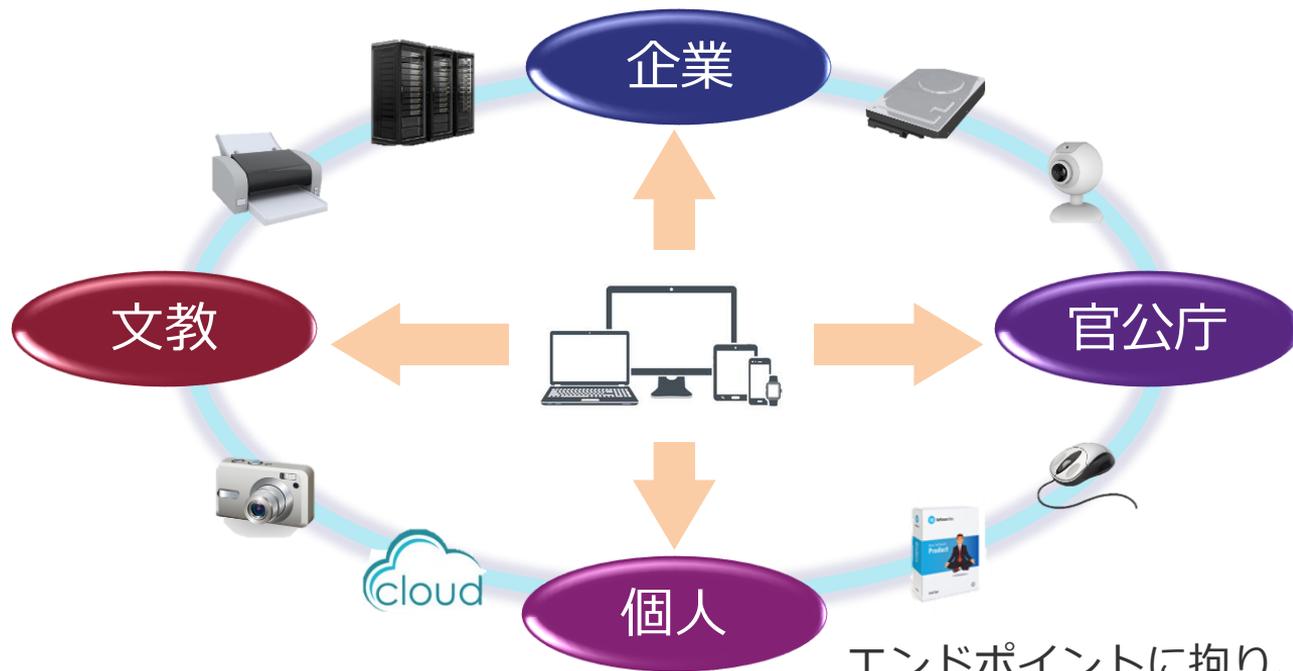
- Windows7のリプレース需要と付随する様々なIT投資の囲い込み
- 「iKAZUCHI（雷）」を軸としたサブスクリプションビジネスの更なる普及
- 文教専任部隊の販売支援によるICT環境整備の推進

施策

- 主要なエンドポイントを「重点ITデバイス」と称し、様々なIT需要へ貢献
- サブスクリプションビジネスへの市場変化を全国の販売チャネルへ推進
- 文教市場のICT環境整備に向けた年度毎の動向を的確に捉えた活動促進



重点施策① 様々なエンドポイントと 付随するIT需要にフォーカス



エンドポイントに拘り、
それに付随する複合的な需要の獲得

重点施策②サブスクリプション型ビジネスの拡大に向け、 新たな流通・サービス網の更なる構築

サブスクリプション管理ポータル iKAZUCHI（雷）の推進

クラウドビジネスを進める上で、月額課金や年額課金、
従量課金などの様々なクラウドサービスの提供形態に対応した
販売店様向けサブスクリプション管理ポータル。



利用しているサービスと
ライセンス



従量課金サービスの
最新の使用状況

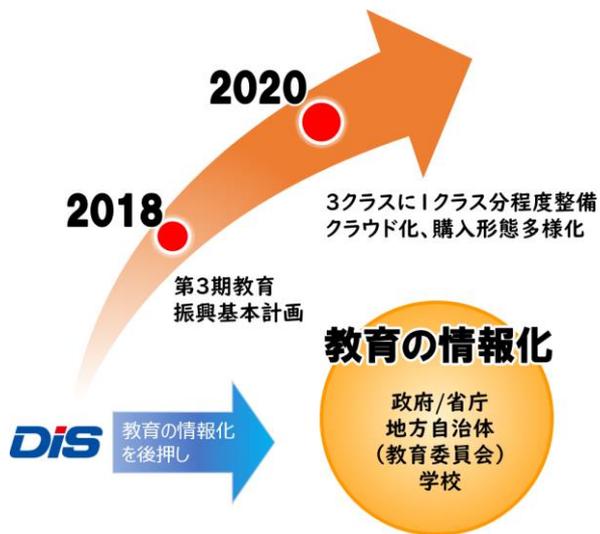


利用状況に応じた
ご請求内容の管理

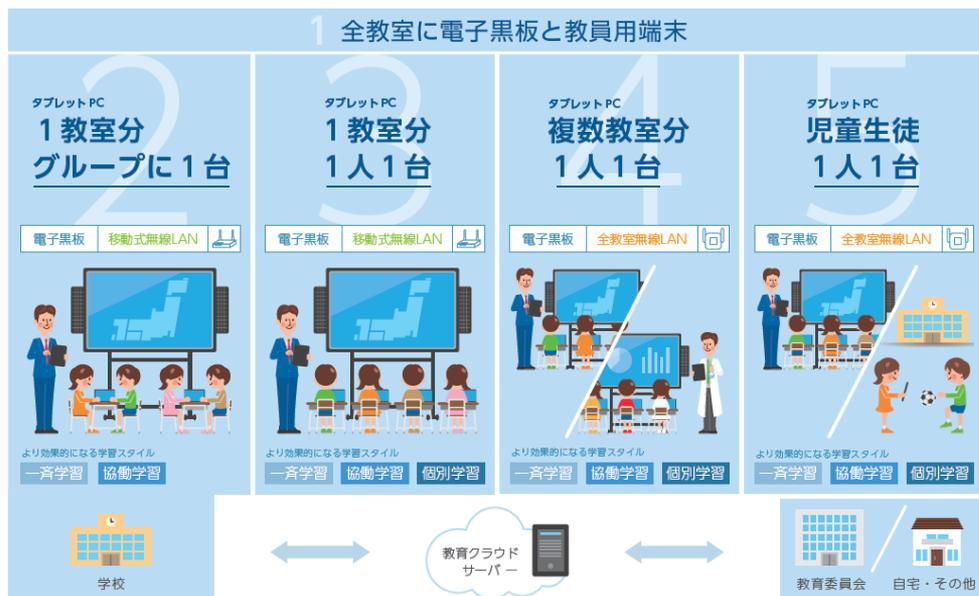
重点施策③ 文教市場への取り組み強化

教育の情報化推進の為に

Step by Stepでの活用提案



学校現場の状況に応じ段階を踏んだ整備



繊維事業の取り組み課題と施策

下期の事業環境

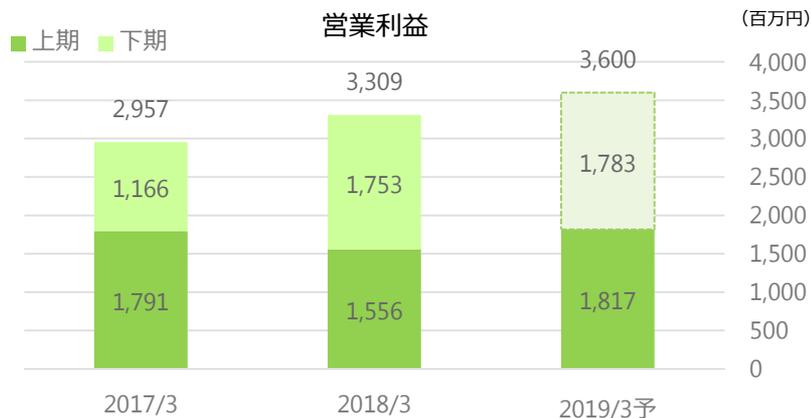
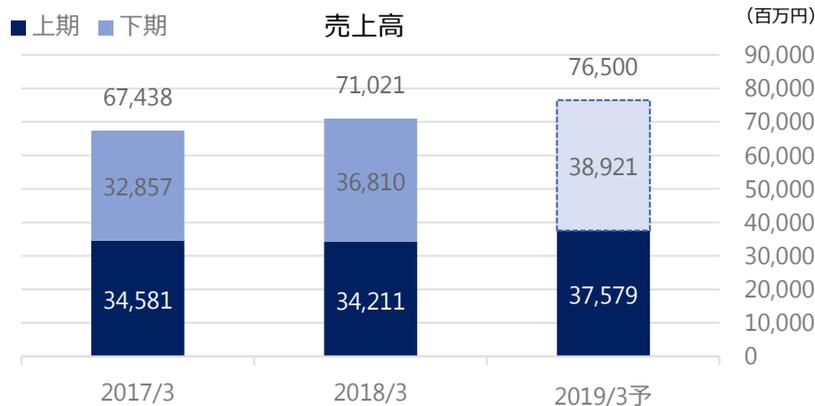
- 合 織 部 門：原料価格の上昇
- レーヨン部門：原燃料価格の上昇
- 機能製品部門：電子部品業界は好調を持続
- 樹助部門：災害復興需要等に伴う産業用シートの受注拡大
- 衣料製品部門：引き続き国内アパレルは低迷

課題

- 合 織 部 門：複合繊維増産設備の円滑な稼働
- レーヨン部門：機能綿を中心とした差別化の推進
- 機能製品部門：成長を見込める電子部品業界向けの拡販
- 樹助部門：災害復興需要による受注増加への対応
- 衣料製品部門：主力顧客との取り組み拡大

施策

- 合 織 部 門：重点顧客との取り組み強化による衛生材料用原綿およびコスメ用不織布の販売拡大
- レーヨン部門：差別化原綿および不織布用レーヨンの販売拡大
- 機能製品部門：高付加価値商品の販売拡大
- 樹助部門：受注増加に対応した、生産性の向上
- 衣料製品部門：独自原料・機能商材のアイテム拡大で受注獲得



工作・自動機械事業の取り組み課題と施策

下期の事業環境

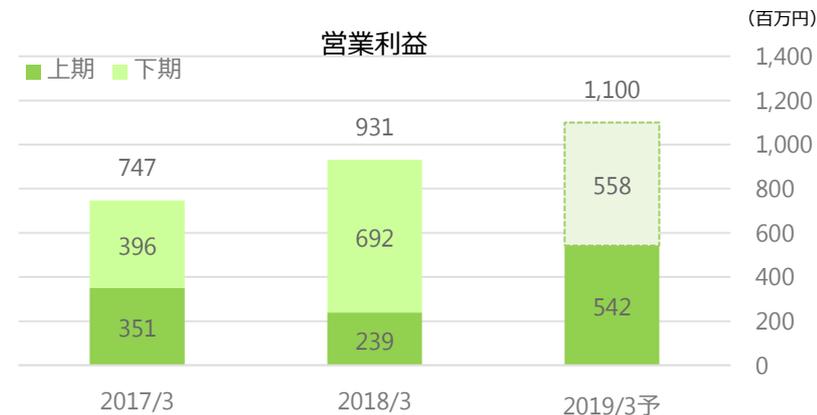
- 工作機械部門：2018年の日本工作機械工業会受注総額は1兆8,500億円と前年比12.4%の増加を見込んでいる
当社の2018年度受注高は97億円と前期比1.3%の増加を予想
- 自動機械部門：2018年度の日本包装機械工業会生産高計画は4,529億円と前年度比1.6%の増加を見込んでいる
当社の2018年度生産高は35億円と前期比15.5%の増加を予想

課題

- 工作機械部門：繁忙期における生産性の向上
海外需要の景気変動への対応
- 自動機械部門：生産増加に対応した納期や採算管理徹底
ユーザーニーズに合わせた省力化機械の提案

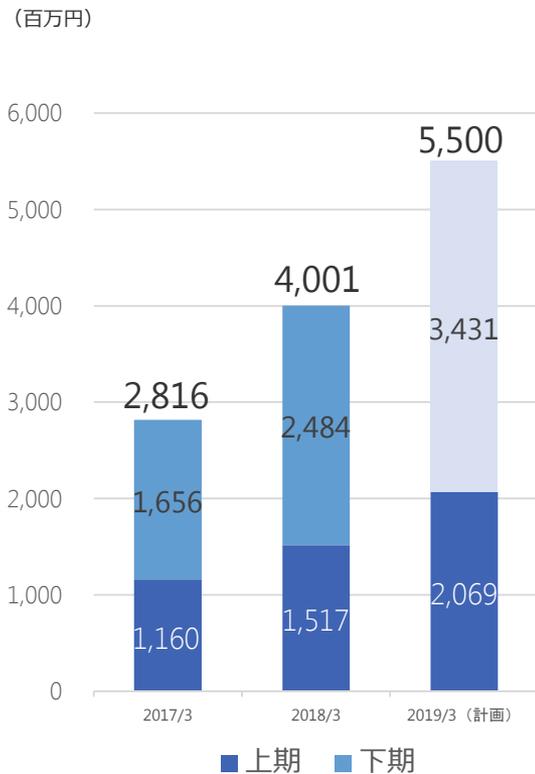
施策

- 工作機械部門：兵庫県播磨にテクニカルセンターを開設しサービスを強化
米国拠点をシカゴに移転し、ターゲット業界への販促を強化
- 自動機械部門：品質・生産管理強化により生産拡大を図る
ロジスティック向けシステムの生産拡大

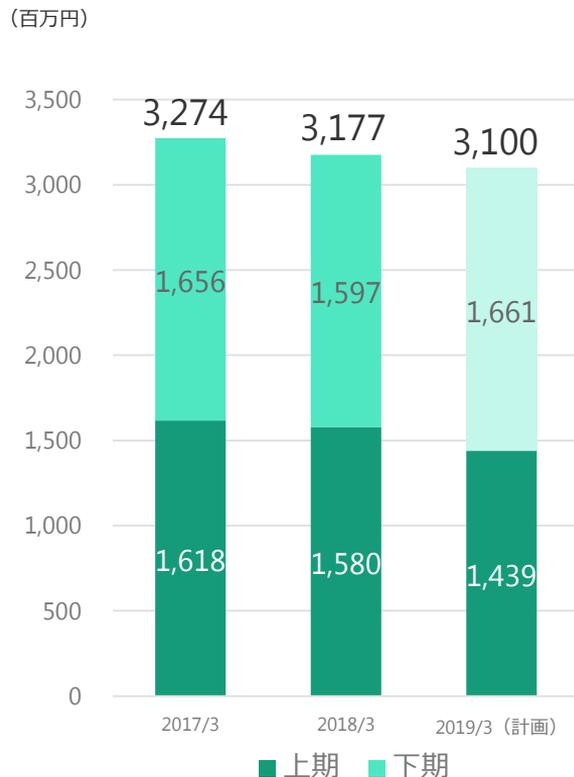


設備投資額／減価償却額／研究開発費

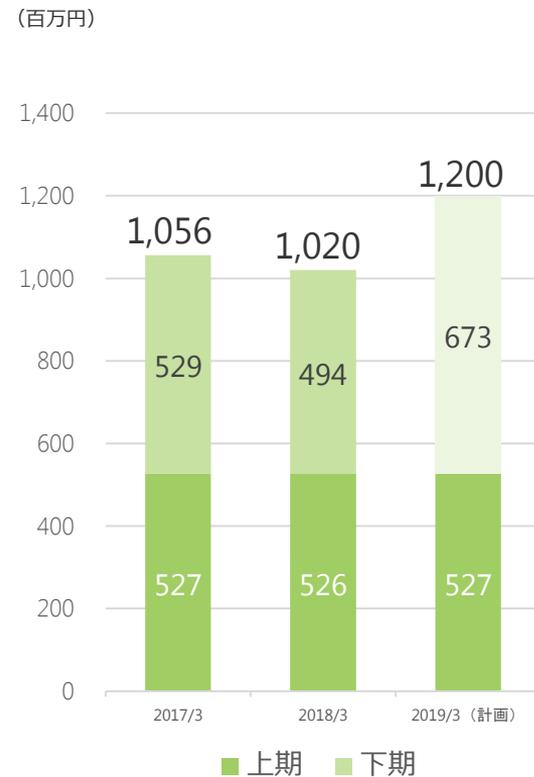
【設備投資額】



【減価償却額】

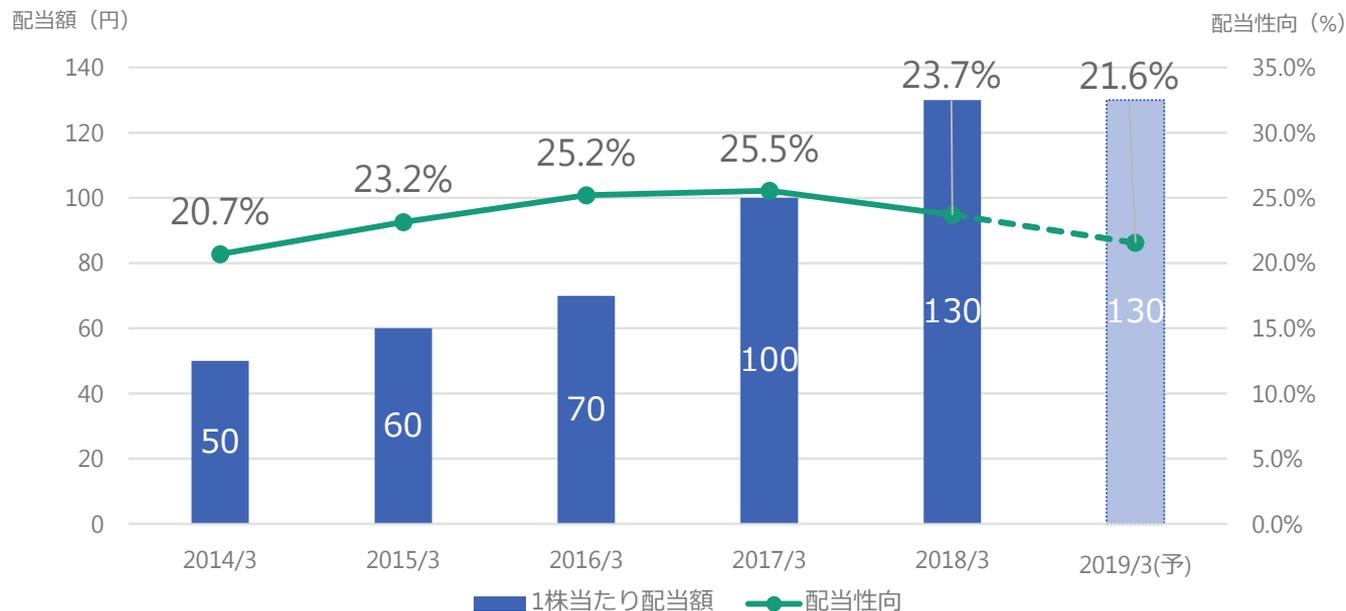


【研究開発費】



株主還元

■ 19/3期の年間配当金は、1株当たり130円を予想



(注) 2017年10月1日に単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、株式について10株を1株への併合を実施

(注) 配当額については全て併合後に換算して表示しております

参考資料



沿革

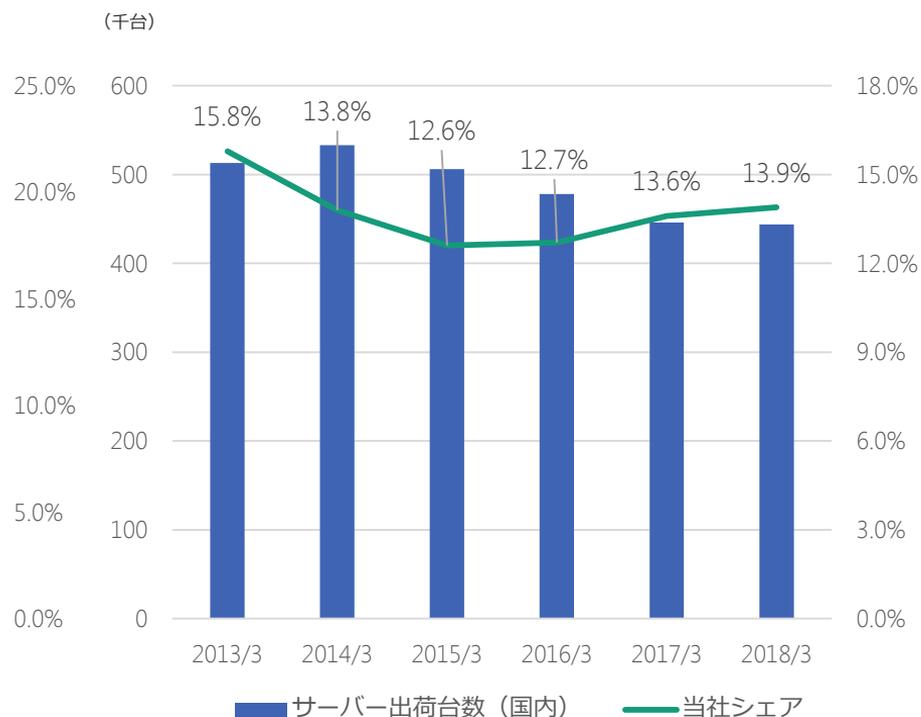
1941年4月 錦華紡績、日出紡績、出雲製織および和歌山紡績の4社が合併し、 大和紡績株式会社（本社/大阪市）として新発足	2004年1月 カンボウプラス株式会社と経営統合
1949年5月 東京証券取引所に株式上場	2005年10月 大和紡工業（蘇州）有限公司を設立
7月 大和機械工業（現株式会社オーエム製作所）を設立	12月 ダイワボウアソシエ株式会社を設立
1963年12月 播磨工場にポリプロ設備新設	2006年1月 会社分割により、全事業部門を「ダイワボウノイ株式会社」 「ダイワボウプログレス株式会社」「ダイワボウポリテック株式会社」 「ダイワボウエステート株式会社」に承継させ、純粋持株会社となる
1971年6月 プリマテキスコ・インドネシアを設立	2007年1月 ダイワボウ・シーテック・インドネシアを設立
6月 ダイワシザイ株式会社（現ダイワボウプログレス株式会社）を設立	2009年3月 ダイワボウ情報システム株式会社と経営統合
9月 霧島国際ホテル開業	2009年7月 ダイワボウホールディングス株式会社に商号変更
1982年4月 ダイワボウ情報システム株式会社を設立	7月 中間持株会社「大和紡績株式会社」を設立
1988年2月 ダイワボウレーヨン株式会社を設立	2011年3月 ダイワボウ・ガーマメント・インドネシアを設立
1994年3月 ダイワボウポリテック株式会社を設立	2011年7月 株式会社オーエム製作所と経営統合
10月 蘇州大和針織服装有限公司を設立	2012年3月 Daiwabo Hong Kong Co.,Limitedを設立
1998年1月 ダイワボウ・インダストリアル・ファブリックス・インドネシアを設立	12月 ダイワボウ・ノンウーブン・インドネシアを設立
2002年1月 ダイワボウアドバンス株式会社を設立	

国内PCおよびサーバーの出荷台数

国内PC出荷台数と当社シェア



国内サーバー出荷台数と当社シェア



新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画（2019/3期～2021/3期）の位置づけ

ITインフラ流通を主軸とした幅広い社会貢献型経営

収益基盤を活用した積極的な事業展開

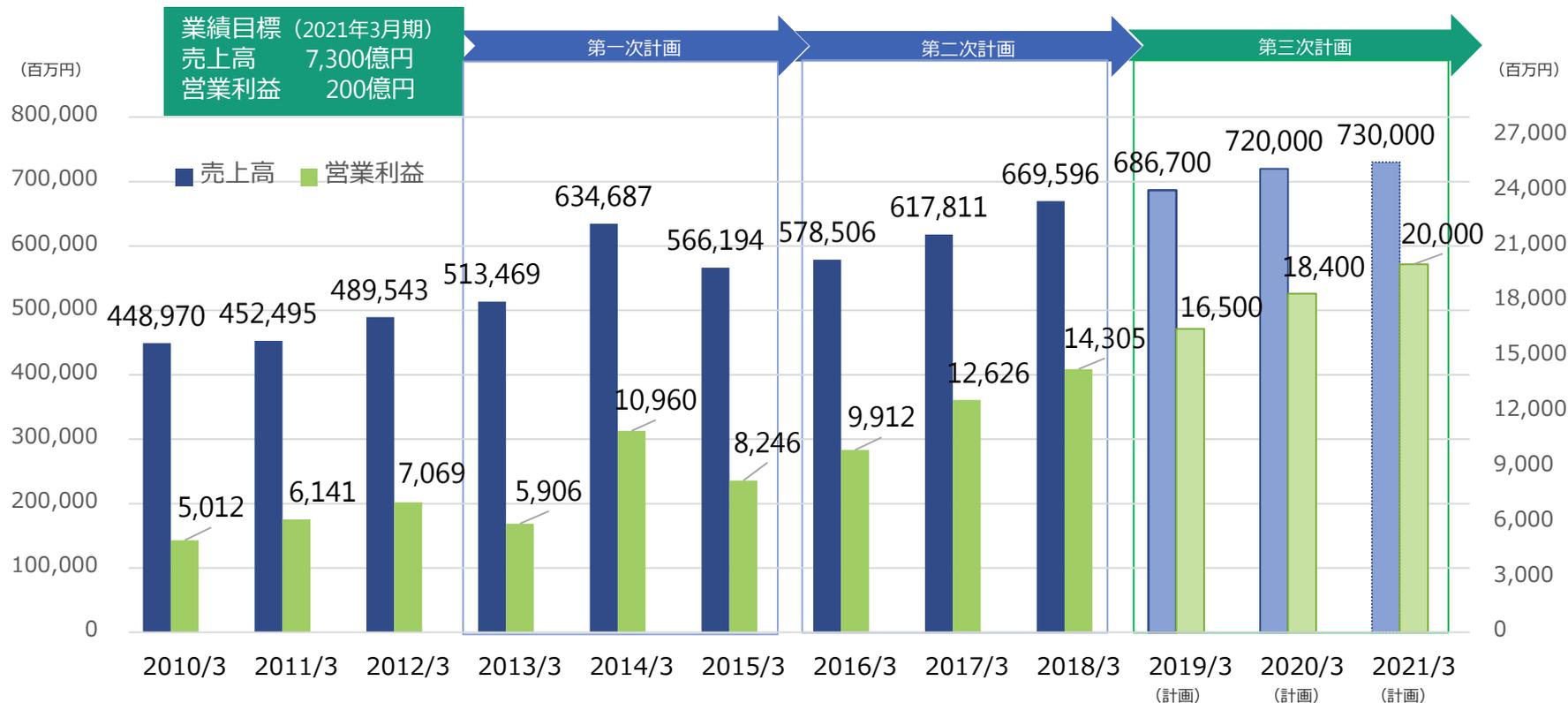
新たなビジネス創造への挑戦期間

新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画（2019/3期～2021/3期）の基本方針

基本方針

- (1) ITインフラ流通事業の更なる拡大
- (2) 繊維および工作・自動機械事業での収益力強化
- (3) コーポレート戦略推進による連結企業価値向上

新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画（2019/3期～2021/3期）の業績目標



免責事項

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。

本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。